

第26回作家展

前期

会期／前期 平成29年11月10日(金)～11月15日(水)
後期 平成29年11月17日(金)～11月22日(水)
会場／さいたま市大宮盆栽美術館
主催／日本盆栽作家協会





白玉椿 鉢：紫泥正方 山田登美男（埼玉県）

椿の種類は大変に多いのですが、盆栽界では昔から一重の赤花、そして白花が好まれており、その中でも数少ない「白玉椿」が貴重とされています。椿はあたたかみのある葉形と色彩が特長です。白玉のような品位のある咲き方が、椿の特長によく調和して美しい姿を見せてくれています。

もみじ（出猩々）
鉢：和鉢楕円
吹田 勇雄（宮城県）

この木は 15 年位前から
蔵者と二人三脚で作り込
んできました。大きかった葉ばりも毎年追い込
んだ結果、まさに形小相大
な姿に仕上がって来まし
た。雑木林の大それを感じて頂けたら幸いです。





寒ぐみ 鉢：和ルリ釉隅切長方 今井 千春（神奈川県）

この寒ぐみは3年前に入手しました。当時はふた回り程大きく、幹が細く見えていたため、切込みと葉刈りを繰り返し行い、ようやく現在の姿になりました。



五葉松

鉢：紫泥楕円

米沢 増雄（東京都）

鉢持ち込みと葉性の美しい五葉松です。今年のように雨の多い条件下においても丹精された状態が、双幹の五葉松を引き立てていると思います。



皐月（金采） 鉢：蕎麦釉袋式楕円 塚田 博巳（茨城県）

幹の太さと比較して、太く大きくうねる枝は、自然の力強さとダイナミックを感じます。皐月ではありますが、雑木の味わいを表現してみました。

五葉松 鉢：中国丸
山崎 純一（富山県）

この五葉松は入手当初、根が大きく鉢ばかりが目立っていました。これを小さく整え、正面を変更し、培養してまいりました。今後はより自然環境の厳しさを表現できるように努めたいと思います。





五葉松・銘「素老」 鉢：紫泥隅入龍文正方 須藤 雨伯（栃木県）

盆栽の「気」は作品の根、幹、枝などのリズム運動において現れ、虚実呼応の間に動き、作品の勢いに伴って現れます。作品の線を重視した「気」と、人間の精神文化思想を作品に合わせることは、作品に満ち溢れる「気韻」を成します。



五葉松
鉢：祐峰南蛮丸
阿部 健一（福島県）

実生5年生の苗木に曲づけをして地植にし、年数をかけ少しづつ根を上げていき、樹今25年の時に鉢上げして最初の整形をしました。それから更に培養し、24年が経っています。左右の枝の長短のバランス、上下の枝に間をとることで各枝の動き、流れを出しています。姿全体に少しでも自然しさを表現できるよう常に考えて盆樹に向き合っています。

作家展主旨

本協会が主催する作家展は、生きた伝承芸術、盆栽作家の精神高揚と高度な盆栽美を作出することにあります。

盆栽作家は人間性の豊かな感性を磨き、自然愛を基本とした芸風を作品に表現されるとが、最も大切であり、お互いを研鑽し合い、盆栽文化の一層の発展を切望するものであります。

しかし、盆栽作家をめざす条件は大変に厳しく、自然との調和を図り、永い修練の中から体得し、その積み重ねから美の心を包涵する作業であります。今日の作家群が明日の社会にクリエイティブなボンサイ・アートとして、環境保全等に貢献できることを期待いたします。

第26回 作家展 後期



黒松・銘「翔鶴」 鉢：紫泥外縁長方 小林 國雄（東京都）

入手した際は、樹冠がかなり右側に大きかったため、左の一の枝の流れに合わせて植え付けの角度を少し変え、空間と流れを創り出し、個性を生かしてみました。2000年の「第74回 国風展」に出品し、満点で国風賞を受賞した名木です。





五葉松 鉢：和長方 馬場 守一（群馬県）

この五葉松は、ある程度の樹形は入手前から完成しており、私自身が苦心した点は特にありません。時々眺めたり、手入れ作業をしたり、樂しみながら作っている一点です。

寒ぐみ

鉢：朱泥丸

菊岡 成泰（奈良県）

寒空に銀色の小さな目立たない花が微笑ましい姿で輝いています。やがて4月から5月上旬頃に赤色の実が花よりも大きく美しくなると、野鳥がやってきます。実を鑑賞するのが通例ですが、盆栽界では「寒ぐみ」と呼んでこの時季の姿を楽しんでいます。





長寿梅 鉢：海鼠外縁長方 福館 治（岩手県）

この長寿梅は、恩人の趣味家が長年持ち込んだ樹で、私が入手してから更なる樹格向上を目指し、左の一の枝を伸ばし、左への流れを強調しようと培養しています。引き締まった印象を出したくて、海鼠長方鉢を合わせました。



五葉松

鉢：和長方

秋山 実（山梨県）

この五葉松は、戦後に産出され、山採りからおよそ70年間にわたり鉢で培養されてきたものです。自然の摺理で主幹の下枝は枯れ落ち、作り込む前に、すでに文人木の素質を形成していました。自らの重みによって枝が下がる自然の様を出すように心掛け、作り込んできました。枝先も自然の風合いが出て、五葉松独特の柔らかさが出てきたと思います。



石榴（ざくろ） 鉢：東福寺緑釉長方 矢内 信幸（大阪府）

石榴でこんなに伸び伸びと鉢持ち込みされた盆栽は今日では大変に珍しいと思います。図柄が文人風の古色で晩秋の美しさを感じます。特に人気の東福寺鉢との調和が盆樹を引き立てています。



荒皮もみじ

鉢：紫泥外縁隅切雲
足長方

岩城 哲也（東京都）

荒皮もみじでの文人木は稀であり、立ち上がりから小枝に至るまで細かくやさしい線を描いています。短冊型の鉢に合わせる事で、左に大きく空間を取り、左に流れる樹姿との調和が図られています。



花梨 鉢：和梢円 松田 大実（神奈川県）

株立ちの花梨で、取木仕立てで35年になります。ようやく小枝も密生して鑑賞して楽しめる姿になりました。今後は根張りもできて大樹の花梨になることを楽しみにしております。



オリーブ 鉢：縁釉長方

風間 雄一（千葉県）

イタリア原産のオリーブの盆栽です。蔵者の長い丹精により、年々と樹格を上げています。ここまで実成りは近年になく、秋の深まりとともに成熟していくオリーブの実は、イタリアの原風景を想像させてくれます。